

## バフィア語動詞アクセント試論

### A Tentative Tonal Analysis of Bafia Verbs

湯川恭敏

Yasutoshi Yukawa

はじめに

バフィア語（話し手たちは、kpagと呼ぶ）というのは、アフリカのカメルーンの首都ヤウンデの西北西の町Bafia およびその近辺に話されるバントゥ系の一言語である。<sup>1)</sup>

本論文でこの言語の表記に用いる子音字とその概略的音価は、次の如くである。

b ([b]), c ([tʃ]), d ([d]), f ([f]), g ([g]. 語中では[ɣ]),  
 gb ([gb]. 二重閉鎖子音), h ([h]), j ([dʒ]), k ([k]), kp ([kp]. 二重閉鎖子音),  
 l ([l]), m ([m]), n ([n]), ng' ([ŋ]), ny ([ɲ]), p ([p]), r ([r]), s ([s]),  
 sh ([ʃ]), t ([t]), w ([w]), y ([j]), z ([z]).<sup>2)</sup>

b/g は、音節末では、破裂しないp や声門閉鎖を伴う破裂しないk となる。

母音字は、次の通りである。

i ([i]), e ([e]), ɛ ([ɛ]), a ([a]), ɔ ([ɔ]), o ([o]), u ([u]), ə ([ə]).

母音には長短の区別があり、さらに、ââ, ôô, ôô, ôôといった、長い鼻母音がある。この言語の母音は、かなり聞き分けにくく、本論文の記述にこの点での観察の誤りが含まれている可能性がある。

アクセントについては、母音字上の´で「高」を、^で「下降調」を、ˇで「上昇調」を、無印で「低」をあらわす。

この言語における人称主格接辞<sup>3)</sup>の形は次の通りである。この言語には、多くのバントゥ諸語に認められる対格接辞<sup>4)</sup>は、認められない。

単数1人称	N	複数1人称	ta
2人称	u	2人称	ba
3人称	a	3人称	ba

N は子音前鼻音をあらわす。

クラス<sup>5)</sup>主格接辞は、次の通りである。クラスは名詞例で示す。ハイフンは、接頭辞と語幹の境界を示す。I~VIは単数名詞のクラスで、VII~XIは複数名詞のクラスである。

- I. m-án 「子供」, n-tii 「義理の親・兄弟姉妹・子」,  
kúla (接頭辞ゼロ) 「猫」 単数3人称に同じ
- II. n-géé 「尾」, m-bámba 「鉄砲」 wu
- III. d-is 「目」, i-tóng' 「角」, rə-lémag 「舌」,  
bondó(接頭辞ゼロ) 「椰子」 də
- IV. kə-bág 「鼠」, c-áá 「首輪」, i-láá 「巢」 kə
- V. bú (接頭辞ゼロ) 「犬」, bóboó(接頭辞ゼロ) 「葉」, ny-am 「動物、肉」  
i
- VI. fə-rám 「畏」 fə
- VII. b-ón 「子供」, ba-tii 「義理の親・兄弟姉妹・子」, ba-kúla 「猫」  
cf. I. 複数3人称に同じ
- VIII. ma-géé 「尾」, ma-bámba 「鉄砲」, m-is 「目」, ma-tóng' 「角」,  
ma-lémag 「舌」, ma-bondó 「椰子」 cf. II/III. ma
- IX. bə-bág 「鼠」, by-áá 「首輪」, bə-láá 「巢」 cf. IV. bə
- X. bú (接頭辞ゼロ) 「犬」, ny-am 「動物、肉」 cf. V. yə
- XI. tə-rám 「畏」 cf. VI. tə

なお、多くのバントゥ諸語の対格接辞にあたる内容は、動詞末尾に次のような「対格接尾辞」を置いてあらわす。

単数1人称	ma	複数1人称	bəsə
2人称	wə	2人称	manyə
3人称(=クラスI)	nyə	3人称(=クラスVII)	bə

クラスII wə, III dyə, IV kə, V yə, VI fyə, VIII mə, IX yə, X cə.

対格接尾辞のアクセント、および、対格接尾辞が続いた場合の動詞のアクセントについては、最後に触れる。

主格接辞をSであらわすが、(1) 単数1～3人称およびクラスVのそれ、(2) その他のそれ、がアクセントの面で区別される。それぞれをS<sub>1</sub>, S<sub>2</sub>と呼ぶことにする。この言語の動詞自体は元来のアクセントの型(A型・B型<sup>61</sup>)の対立を保存している。

なお、このインフォーマント(言語?)のアクセントはかなりぶれるようである。従って、本論文の記述にところどころ不確かな部分がある。

この言語の動詞語幹と呼ぶものには、元来の語幹+əに由来するもの(「通常語幹」と呼ぼう)と、おそらく元来の語幹+ag+əに由来するもの(「延長語幹」と呼ぼう)の2

種類がある。多くのバントゥ諸語は、(元来の)語幹と語尾(a / ag-a)の境界が認識しや  
すい状態にあるが、カメルーン、ガボン、コンゴ共和国に分布するバントゥ系言語のかな  
りのものは、その境界が明確でなくなっている。それだけではなくて、語末の母音が脱落  
したり、奇妙な音韻変化をこうむったりして、多くのバントゥ諸語とはかなり異なる  
状態を呈している。

## § 1. 不定形

この言語の動詞にも、不定形と呼んでよい形(「～すること」の意)がある。

不定形は、

i + 通常語幹 または ra + 通常語幹

という構造を有する。アクセントは、次のように表示しうるように思われる。C は(子音  
前鼻音+)子音(+半母音)を、V は母音をあらわし、X は任意の音素列(∅でもありうる)  
を示す。不定形接頭辞として、i を用いる形を実例とする。

A型: iC<sup>´</sup>(V)X.

B型: iX.

ifá「与える」, igén「見る」, isém「罵る」, ibóg「たたく、蹴る」,

iwéí「殺す」, inyónza「乳を飲ませる」, imáása「なだめる」. (以上A型)

ikpa「倒れる、落ちる」, ikang'「しばる」, inab「追う」, ibai「買う」,

isura「首を締める」, inaren「伸びをする」, inyægsa「くすぐる」,

iloořen「向きを変える」. (以上B型)

なお、この言語の不定形は、あとに目的語を続けることができない。「ボール(balóó)  
を蹴ること」ということをあらわすには、

ibóg dá balóó

という。dáは、クラスIII(不定形はクラスIIIに属するものと扱われている)に呼応する  
「の」という意味の語であり、文字通りには「ボールの蹴ること」である。

## § 2. 直説法形

次に、直説法形の構造とアクセントを扱う。

### § 2—1. 通常語幹を用いる形

まず、不定形と同じ語幹を用いる形を見る。

## § 2—1—1. 現在形

現在行われているか、いつも行われる行為をあらわす形は、

主格接辞 + i + 通常語幹

という構造を有する。主格接辞+iの形は、次の如くである。

単数1人称 əN, 2人称 uu, 3人称(=クラスI) aa,

複数1人称 tii, 2人称 bii, 3人称(=クラスVII) bee,

クラスII wii, III dii, IV kii, V ii, VI fii, VIII mee, IX bii,

X yii, XI tii.

ただし、単数1人称以外の場合、通常語幹がCV+鼻音・子音前鼻音であるか、それではじまる場合、uN, aN, tiN, biN, beN, etc. となる。アクセントは、次の如く表示しうる。なお、この形の場合、S<sub>1</sub>S<sub>2</sub>の違いはあらわれない。+ I は、調整規則<sup>7)</sup>I を付け加える必要がある、の意である。

A型:  $\acute{S}iC\acute{V}X$  (i がN であられると、 $\acute{S}$  は $\hat{S}$  となる。X < CVなら、 $C\acute{V}$ はCVとなる。

「調整規則I」と呼ぶ)。

B型:  $\acute{S}iC\acute{V}X (+ I)$ 。

áafa 「彼は与え(てい)る」, ângen, ânsem, áabog, áaweï, ânyónzə, áamáasə.

(以上A型)

áakpə 「彼は倒れる」, ânkang', áanab, áabai, áasúra, áanáren, áanyógsə,

áalóren.

(以上B型)

## § 2—1—2. 現在完了形

既に行われた行為をあらわす形は、

主格接辞 + ma + 通常語幹

という構造を有し、アクセントは、次の如く表示しうる。

A型:  $S_1máC\acute{V}(\acute{V})X$  (X = CあるいはX = ʔなら、 $C\acute{V}(\acute{V})$  はCV(V) となる。「調整規則II」と呼ぶ)。

$\acute{S}_2máC\acute{V}(\acute{V})X (+ II)$ 。

B型:  $S_1máX, \acute{S}_2máX$ 。

amáfa 「彼はもう与えた」, amágen, amásem, amábog, amáweï, amányónzə,

amámáasə;

bámáfa 「彼らはもう与えた」, bámágen, bámásem, bámábog, bámáweï, bámányónzə,

bámámáásə; (以上A型)

amákə 「彼はもう倒れた」, amákang', amánab, amábai, amásurə, amánaren,  
amányəgsə, amáloqren;

bámákə 「彼らはもう倒れた」, bámákang', bámánab, bámábai, bámásurə,  
bámánaren, bámányəgsə, bámáloqren. (以上B型)

### § 2—1—3. 現在否定形

§ 2—1—1の形に対応する否定形は、

主格接辞 + i + 通常語幹 + bə

という構造を有する。主格接辞+iの形は§ 2—1—1に見た如くである。アクセントは、次の如く表示しうる。この形の場合も、S<sub>1</sub>S<sub>2</sub>の違いはあらわれない。

A型:  $\acute{S}iC\acute{V}Xb\acute{a}$  ( i がN であられると、 $\acute{S}$  は $\hat{S}$  となる。X = VならX は $\acute{X}$  となる。

「調整規則III」と呼ぶ)。

B型:  $\acute{S}iC\acute{V}Xb\acute{a}$  (+ III)。

áafábé 「彼は与え(てい)ない」, ângénbé, ânsémbé, áabógbé, áawéíbé,

ânyónzəbé, áamáasəbé;

áakpəbé 「彼は倒れない」, ânkáng' bé, áanábbé, áabáíbé, áasúrəbé, áanárenbé,

áanyəgsəbé, ááloqrenbé. (以上B型)

### § 2—1—4. 現在完了否定形

§ 2—1—2の形に対応する否定形は、

主格接辞 + ka + 通常語幹 + bə

という構造を有し、アクセントは、次の如く表示しうる。

A型: S<sub>1</sub>ká $\acute{X}$ bé,  $\acute{S}$ <sub>2</sub>ká $\acute{X}$ bé.

B型: S<sub>1</sub>káC $\acute{V}$ (V) $\acute{X}$ bé ( ( )内のV があらわれなければ、 $\acute{X}$  はXとなる。X = C(C~)

あるいはX =  $\emptyset$ で、( )内のV があらわれなければ、C $\acute{V}$ はC $\hat{V}$ となる。「調整規則IV」と呼ぶ)。

$\acute{S}$ <sub>2</sub>káC $\acute{V}$ (V) $\acute{X}$ bé (+ IV)。

akáfábé 「彼はまだ与えていない」, akágénbé, akásémbé, akábógbé, akawéíbé,

akányónzəbé, akámáasəbé;

bákáfábé 「彼らはまだ与えていない」, bákágénbé, bákásémbé, bákábógbé,

bákawéí**á**, bákányónz**á**, bákamáás**á**. (以上A型)

akákáp**á**「彼はまだ倒れていない」, akákâng' b**á**, akanâbb**á**, akábáib**á**, akásúr**á**,  
akánáren**á**, akányâgs**á**, akálóor**é**n**á**;

bákákáp**á**「彼らはまだ倒れていない」, bákákâng' b**á**, bákánâbb**á**, bákábáib**á**,  
bákásúr**á**, bákánáren**á**, bákányâgs**á**, bákálóor**é**n**á**. (以上B型)

## § 2-2. 延長語幹を用いる形

「はじめに」に述べたように、延長語幹というのは元来の語幹+agta に由来すると考えられるが、種々の音韻変化の結果、通常語幹とはかなり複雑な対応関係を示す。以下に、その対応関係を概観する。不定形と延長語幹を対応させるが、後者についてはアクセント表示を省く。なお、この他、例外的な形の延長語幹が認められる。

- 1) ~Cen という通常語幹には、~Cee が対応する。

ilóor**en** 「向きを変える」 vs. loor**ee**

ただし、~がないのにこの規則に従うものがある。

ig**én** 「見る」 vs. g**ee**

ik**en** 「行く」 vs. k**ee**

- 2) ~C という通常語幹には、~Cii が対応する。

imáás**a** 「なだめる」 vs. maas**ii**

- 3) CVC(2番目のCがgの場合を除く) という通常語幹には、CVC**a**が対応する。

inab 「追う」 vs. nab**a**

ishán 「叫ぶ」 vs. shan**a**

ただし、これには、特に2番目のCがnの場合、かなり例外がある。

it**an** 「編む」 vs. t**â**n

it**on** 「建てる」 vs. t**ô**n

ikang' 「縛る」 vs. k**â**n

- 4) (~)CVg という通常語幹には、(~)CVVが対応する。

ib**óg** 「たたく」 vs. bo**o**

is**ig** 「脅す」 vs. si**i**

iyí**lag** 「習う」 vs. yi**laa**

これにも、例外がある。

inyomag 「呪いの言葉を吐く」 vs. nyom**ee**

5) CVV (VV は非鼻音化長母音) には、CVV が対応する。

isoo 「洗う」 vs. soo

これにも、例外がある。

iloo 「吐く」 vs. lowii

ifyaa 「掻きとる」 vs. fyawii

6) CVV (VV は鼻音化長母音) には、CVng' ii (V は非鼻音化母音) が対応する。

isõõ̃ 「脱ぐ」 vs. song' ii

ikõõ̃ 「ゴミを集める」 vs. kong' ii

7) CVi には、CVla が対応する。

iteí 「すくう」 vs. tela

iboi 「腐る」 vs. bqla

例外がある。

iwéí 「殺す」 vs. wola

8) CV には、CVV が対応する。

ifa 「与える」 vs. faa

idi 「食べる」 vs. dii

例外がある。

ikpə 「倒れる」 vs. kpəii

iwú 「死ぬ」 vs. wii

9) CVig には、CVra が対応する。

isaig 「水を払う」 vs. sarə

iteig 「買い戻す」 vs. tərə

例外がある。

ipwéíḡ 「脚を閉じる」 vs. porə

以下に、実例として用いる動詞の延長語幹の形を示す。

ifá: faa, igén: gee, isém: semə, ibóg: boo, iwéí: wola,

inyónzə: nyonzii, imáásə: maasii;

ikpə: kpəii, ikang': kãã, inab: nabə, isurə: surii, inyəgsə: nyəgsii,

ilqoren: looree.

## § 2—2—1. 過去形

昨日もしくはそれ以前のある時点において行われた行為をあらわす形は、

主格接辞 + n + 延長語幹

という構造を有するが、単数1～2人称主格接辞は、代名詞起源のma/wq があらわれる。

アクセントは次のように表示しうる。

A型: Š<sub>1</sub>nXV́, Š<sub>2</sub>nXV́.

B型: Š<sub>1</sub>nCV(V)X́ (X = Øなら、(V) は(V́) となる。「調整規則V」と呼ぶ)。

Š<sub>2</sub>nCV(V)X́ (+ V)。

mǎnfaá「私は与えた」, mǎngeé, mǎnsemá, mǎnboó, mǎnwólá, mǎnyonzií,

mǎnmaasií;

bánfaá「彼らは与えた」, bǎngeé, bǎnsemá, bǎnboó, bǎnwólá, bǎnyonzií,

bánmaasií.

(以上A型)

mǎnkpaíí「私は倒れた」, mǎnkāá, mǎnnabá, mǎnsuríí, mǎnyagsíí, mǎnloqréé;

bánpkaíí「彼らは倒れた」, bǎnkāá, bǎnnabá, bánsuríí, bányagsíí, bǎnloqréé.

(以上B型)

A型が単独で発音される場合、短い語形では末尾の「高」が聞き取りにくいのが、一応上のように解釈しておく。

## § 2—2—2. 今日の過去形

直前ではないその日のある時点において行われた行為をあらわす形は、

主格接辞 + a + 延長語幹

という構造を有する。主格接辞+aの形は、次の如くである。単数1～2人称主格接辞は、ma/wq が想定される。

単数1人称 maa, 2人称 waa, 3人称(=クラスI) aa,

複数1人称 caa, 2人称 byaa, 3人称(=クラスVII) baa,

クラスII waa, III dyaa, IV kaa, V yaa, VI fyaa, VIII maa,

IX byaa, X yaa, XI caa.

アクセントは次のように表示しうる。

A型: S<sub>1</sub>áXV́, S<sub>2</sub>áXV́.

B型: S<sub>1</sub>áCV(V)X́ (+ V), S<sub>2</sub>áCV(V)X́ (+ V)。

maáfaá「私は与えた」, maágeé, maásemá, maáboó, maáwólá, maányonzií,

maámaasií;

bááfaá 「彼らは与えた」, báágeé, báásemá, bááboó, bááwólá, báányonzíí,

báámaasií.

(以上A型)

maákpaíí 「私は倒れた」, maákââ, maánabá, maásuríí, maányagsíí, maálooréé;

báákpaíí 「彼らは倒れた」, báákââ, báánabá, báásuríí, báányagsíí, báálooréé.

(以上B型)

A型が単独で発音される場合、短い語形では末尾の「高」が聞き取りにくい。

### § 2—2—3. たった今の過去形

たった今行われた行為をあらわす形は、

主格接辞 + 延長語幹

という構造を有し、アクセントは次のように表示しうる。

A型:  $S_1\acute{X}$ ,  $S_2\acute{X}$ .

B型:  $S_1CV(V)\acute{X}$  (+ V),

$S_2CV(V)\acute{X}$  ( ( )内のV があらわれなければ、 $\acute{X}$  はX となる。「調整規則VI」と呼ぶ)。

mfáá 「私は与えた」, ngéé, nsémá, mbóó, nwólá, nnyonzíí, mmáásií;

báfáá 「彼らは与えた」, bágeé, básémá, báboó, báwólá, bányonzíí, bámaásií.

(以上A型)

nkpaíí 「私は倒れた」, nkââ, nnabá, nsuríí, nnyagsíí, nlooréé;

bákpaíí 「彼らは倒れた」, bákáâ, bánábá, básuríí, bányagsíí, bálooréé.

(以上B型)

### § 2—2—4. 未来形

未来に行われる行為をあらわす形は、

主格接辞 + bii + 延長語幹

という構造を有し、アクセントは次のように表示しうる。

A型:  $S_1bíiCV\acute{X}$  ( X = (C)V なら、 $\acute{X}$  はX となる。「調整規則VII」と呼ぶ),

$S_2bíiCV\acute{X}$  (+ VII).

B型:  $S_1bíiCV(V)\acute{X}$  (+ V),  $S_2bíiCV(V)\acute{X}$  (+ V).

mbíifáa 「私は与える」, mbíigéé, mbíisémá, mbíibóó, mbíiwólá, mbíinyonzíí,

mbíimáásíí;

bábíifáa 「彼らは与える」, bábíigéé, bábíisémə, bábíiboo, bábíiwola,

bábíinyónzíí, bábíimáásíí. (以上A型)

mbíikpáíí 「私は倒れる」, mbíikāá, mbíinabá, mbíisuríí, mbíinyəgsíí,

mbíiloqréé;

bábíikpáíí 「彼らは倒れる」, bábíinabá, bábíikāá, bábíisuríí, bábíinyəgsíí,

bábíiloqréé. (以上B型)

### § 2—2—5. 過去否定形

§ 2—2—1 の形に対応する否定形は、

主格接辞 + n + 延長語幹 + bə

という構造を有する。単数1～2人称主格接辞は、代名詞起源のma/wə があらわれる。アクセントは、次のように表示しうる。

A型: Š<sub>1</sub>nXVbá, Š<sub>2</sub>nXVbá.

B型: Š<sub>1</sub>nCV(V)Xbá (+ V), Š<sub>2</sub>nCV(V)Xbá (+ V).

mǎnfaábá 「私は与えなかった」, mǎngeéé, mǎnsemé, mǎnboóbá, mǎnwolábá,

mǎnnyonziíbá, mǎnmaasiíbá;

bánfaábá 「彼らは与えなかった」, bǎngeéé, bǎnsemé, bǎnboóbá, bǎnwolábá,

bǎnnyonziíbá, bǎnmaasiíbá. (以上A型)

mǎnkpáííbá 「私は倒れなかった」, mǎnkāábá, mǎnnabábá, mǎnsurííbá,

mǎnnyəgsííbá, mǎnloqréé;

báncpáííbá 「彼らは倒れなかった」, báncāábá, bánnabábá, bánsurííbá,

bánnnyəgsííbá, bǎnloqréé. (以上B型)

### § 2—2—6. 今日の過去否定形

§ 2—2—2 の形に対応する否定形は、

主格接辞 + a + 延長語幹 + bə

という構造を有する。主格接辞+aの形は、§ 2—2—2 に見た如くである。

アクセントは次のように表示しうる。

A型: S<sub>1</sub>áXVbá, S<sub>2</sub>áXVbá.

B型: S<sub>1</sub>áCV(V)Xbá (+ V), S<sub>2</sub>áCV(V)Xbá (+ V).

maáfaábá 「私は与えなかった」, maágeé**é**bá, maásemábá, maáboóbá, maáwolóbá,  
maányonziíbá, maámaasiíbá;

bááfaábá 「彼らは与えなかった」, báágeé**é**bá, báásemábá, bááboóbá, bááwolóbá,  
báányonziíbá, báámaasiíbá. (以上A型)

maákpaí**í**bá 「私は倒れなかった」, maákāábá, maánabábá, maásurí**í**bá,  
maányagsí**í**bá, maáloré**é**bá;

báákpaí**í**bá 「彼らは倒れなかった」, báákāábá, báánabábá, báásurí**í**bá,  
báányagsí**í**bá, bááloré**é**bá. (以上B型)

### § 2—2—7. たった今の過去否定形

§ 2—2—3の形に対応する否定形は、

主格接辞 + 延長語幹 + bə

という構造を有し、アクセントは次のように表示しうる。

A型: S<sub>1</sub>ǎbá, ǎ<sub>2</sub>ǎbá.

B型: S<sub>1</sub>CV(V)ǎbá (+ V),

ǎ<sub>2</sub>CV(V)ǎbá (X = ∅なら、(V) は(V̄) となる。「調整規則VIIIと呼ぶ」).

mfáábə 「私は与えなかった」, ngé**é**bə, nsémábə, mbóóbə, nwólóbə, nnyónziíbá,  
mmáási**í**bá;

báfáábə 「彼らは与えなかった」, báge**é**bə, básémábə, báboóbə, báwólóbə,  
bányónziíbá, bámaási**í**bá. (以上A型)

nkpaí**í**bə 「私は倒れなかった」, nkāábə, nnabábə, nsurí**í**bə, nnyagsí**í**bə,  
nlóoré**é**bə;

bákpáí**í**bə 「彼らは倒れなかった」, bákāábə, bánabábə, básurí**í**bə, bányágsí**í**bə,  
báloré**é**bə. (以上B型)

### § 2—2—8. 未来否定形

§ 2—2—4の形に対応する否定形は、

主格接辞 + bii + 延長語幹 + bə

という構造を有し、アクセントは次のように表示しうる。

A型: S<sub>1</sub>bíiCVǎbá (+ VII), ǎ<sub>2</sub>bíiCVǎbá (+ VII).

B型: S<sub>1</sub>bíiCV(V)ǎbá (+ V), ǎ<sub>2</sub>bíiCV(V)ǎbá (+ V).

mbíifáábá 「私は与えない」, mbíigéé**é**bá, mbíisémábá, mbíibóóbá, mbíiwólábá,  
mbíinyónz**í**bá, mbíimáás**í**bá;

bábíifáábá 「彼らは与えない」, bábíigéé**é**bá, bábíisémábá, bábíibóóbá,  
bábíiwólábá, bábíinyónz**í**bá, bábíimáás**í**bá. (以上A型)

mbíikpá**í**bá 「私は倒れない」, mbíikáábá, mbíinabábá, mbíisur**í**bá,  
mbíinyəgs**í**bá, mbíilo**o**r**é**bá;  
bábíikpá**í**bá 「彼らは倒れない」, bábíinabábá, bábíikáábá, bábíisur**í**bá,  
bábíinyəgs**í**bá, bábíilo**o**r**é**bá. (以上B型)

### § 3. 命令・禁止形

#### § 3-1. 命令形

命令に用いられる形は、相手が単数の場合と複数の場合で構造が異なる。

##### § 3-1-1. 対単数命令形

相手が単数の場合の命令形は通常語幹の末尾にaを加えたような構造のようであるが、通常語幹が2音節の場合そのままであるなど、例外も多い。アクセントは、次のように表示できる。

A型:  $\acute{X}$ .

B型: CV(V) $\acute{X}$ .

fáyá 「与えろ」, g**é**ná 「見ろ」, s**é**má 「罵れ」, bóá 「たたけ」, wólá 「殺せ」,  
nyónz**á** 「乳を飲ませろ」, máás**á** 「なだめろ」. (以上A型)

kpáyá 「倒れろ」, kang'á 「しばれ」, nabá 「追え」, surá 「首を締めろ」,  
nar**é**n 「伸びをしろ」, nyəgs**á** 「くすぐれ」, lo**o**r**é**n 「向きをかえろ」.

(以上B型)

##### § 3-1-2. 対複数命令形

相手が複数の場合の命令形は、延長語幹+naのような形だが、例外も多い。アクセントは、次のように表示できる。

A型:  $\acute{X}$ na.

B型: CV(V) $\acute{X}$ na.

fáána 「(君達) 与えろ」, gééna 「見ろ」, sémgíina 「罵れ」,  
bóóna 「たたけ」, wólóna 「殺せ」, nyónzíina 「乳を飲ませろ」,  
máásíina 「なだめろ」. (以上A型)

kpáína 「倒れろ」, kang'ána 「しばれ」, nabóna 「追え」,  
surína 「首を締めろ」, naréna 「伸びをしろ」, nyægsíina 「くすぐれ」,  
looréena 「向きをかえろ」. (以上B型)

### § 3 - 2. 禁止形

#### § 3 - 2 - 1. 対単数禁止形

相手が単数の場合の禁止形は、

koq + 通常語幹

という構造を有し、アクセントは、次のように表示しうる。

A型: koqX.

B型: koqCV(V)X' (XはCでもありうるが、その場合'は消滅する。「調整規則IX」  
と呼ぶ)。

koqfa 「与えるな」, koqgen, koqsem, koqbog, koqwei, koqnyonza, koqmaasə.  
(以上A型)

koqkpə 「倒れるな」, koqkang', koqnab, koqsura, koqnaren, koqnyægsə,  
koqloorén 「向きをかえろ」. (以上B型)

#### § 3 - 2 - 2. 対複数禁止形

相手が複数の場合の禁止形は、

byeə + 通常語幹

という構造を有し、アクセントは、次のように表示しうる。

A型: byeəX.

B型: byeəCV(V)X' (+ IX).

byeəfa 「(君達) 与えるな」, byeəgen, byeəsem, byeəbog, byeəwei, byeənyonza,  
byeəmaasa. (以上A型)

byeəkpə 「(君達) 倒れるな」, byeəkang', byeénab, byeəsura, byeénaren,  
byeənyægsə, byeəloorén. (以上B型)

## § 4. 接続法形

「～が～するように」と訳すと何となく意味の通じる形があり、バントゥ諸語研究では「接続法」と呼ばれることが多い。

接続法形は、

主格接辞 + 通常語幹

という構造を有する。アクセントは、次のように表示しうるようである。

A型:  $\acute{S}C\acute{V}(V)\acute{X}$  (X =  $\emptyset$ なら、(V) は( $\acute{V}$ ) となる。「調整規則X」と呼ぶ)。

B型:  $\acute{S}C\acute{V}(V)\acute{X}$  (( ) 内のV があらわれなければ、 $\acute{X}$  はX となる。「調整規則XI」と呼ぶ)。

$\acute{a}f\acute{a}$  「彼が与えるように」,  $\acute{a}g\acute{e}n$ ,  $\acute{a}s\acute{e}m$ ,  $\acute{a}b\acute{o}g$ ,  $\acute{a}w\acute{e}i$ ,  $\acute{a}ny\acute{o}n\acute{z}\acute{a}$ ,  $\acute{a}m\acute{a}a\acute{s}\acute{a}$ .

(以上A型)

$\acute{a}kp\acute{a}$  「彼が倒れるように」,  $\acute{a}k\acute{a}ng'$ ,  $\acute{a}n\acute{a}b$ ,  $\acute{a}s\acute{u}r\acute{a}$ ,  $\acute{a}n\acute{a}r\acute{e}n$ ,  $\acute{a}ny\acute{o}g\acute{s}\acute{a}$ ,  $\acute{a}l\acute{o}g\acute{r}\acute{e}n$ .

(以上B型)

この形の複数1人称形は、「～しよう」という意味でよく用いられる。

$t\acute{s}k\acute{e}n$  「行こう」 (<  $ik\acute{e}n$  「行く」)。

## § 5. 連体修飾形

動詞がうしろから名詞を修飾する時の形は、非常にデータ不足ではあるが、直説法形と同じであるようである。

$m\acute{o}m\ \acute{a}f\acute{a}\acute{a}ma\ \acute{b}\acute{u}$  「私に(-ma) に犬( $\acute{b}\acute{u}$ )を与えた人( $m\acute{o}m$ )」。

$m\acute{o}m\ m\acute{f}\acute{a}\acute{a}\ \acute{b}akp\acute{e}d\acute{e}$  「私がバナナ ( $\acute{b}akp\acute{e}d\acute{e}$ . 複数) を与えた人」。cf. § 2-2-3.

$m\acute{o}m\ \acute{a}b\acute{i}ires\acute{i}b\acute{a}s\acute{a}$  「私達( $\acute{b}\acute{a}s\acute{a}$ )を(未来において)教える(<  $ires\acute{a}$ )人」。

cf. § 2-2-4.

## § 6. 対格接尾辞

ここでは、「はじめに」に見た対格接尾辞のアクセントを見るが、このインフォーマント(言語?)の発音は(特に否定形の場合)極めて曖昧で、確定しづらい場合がある。

対格接尾辞は、独立代名詞と同じ形であるが、独立代名詞として単独で発音されると、次のようなアクセントであるようである。

人称代名詞:  $ma$ ,  $w\acute{o}$ ,  $ny\acute{a}$ ,  $\acute{b}\acute{a}s\acute{a}$ ,  $m\acute{a}ny\acute{a}$ ,  $\acute{b}\acute{o}$ ,

クラスII:  $w\acute{o}$ , III:  $dy\acute{o}$ , IV:  $k\acute{o}$ , V:  $y\acute{o}$ , VI:  $fy\acute{o}$ , VII:  $fy\acute{o}$ , VIII:  $m\acute{o}$ , IX:  $y\acute{o}$ ,

X: cǫ.

なお、動詞末尾がəで終わると、ə + nyə はinyəとなるようである。

しかし、対格接尾辞として用いられると、CVという構造のものはアクセント的に等しくなるようであり、CVCVという構造のものもそうである。

§ 2—1—1に見た形に対格接尾辞が続く場合は、動詞部分が

A型:  $\acute{S}iC\acute{V}X$  (+ III).

B型:  $\acute{S}iC\acute{V}X$  (+ III).

というアクセントとなり、対格接尾辞のアクセントは $C\acute{V}/C\acute{V}CV$ となる。

$\hat{a}ng\acute{e}nm\acute{a}$  「彼は私を見(てい)る」,  $\hat{a}ng\acute{e}nb\acute{o}$  「彼は彼らを見(てい)る」,

$\hat{a}ng\acute{e}nb\acute{s}\acute{s}\acute{a}$  「彼は私たちを見(てい)る」;

$\acute{a}m\acute{a}as\acute{e}m\acute{a}$  「彼は私をなだめ(てい)る」,

$\acute{a}m\acute{a}as\acute{e}b\acute{o}$  「彼は彼らをなだめ(てい)る」,

$\acute{a}m\acute{a}as\acute{e}b\acute{s}\acute{s}\acute{a}$  「彼は私たちをなだめ(てい)る」.

(以上A型)

$\hat{a}nk\acute{a}ng'\acute{m}\acute{a}$  「彼は私をしば(ってい)る」,

$\hat{a}nk\acute{a}ng'\acute{b}\acute{o}$  「彼は彼らをしば(ってい)る」,

$\hat{a}nk\acute{a}ng'\acute{b}\acute{s}\acute{s}\acute{a}$  「彼は私たちをしば(ってい)る」;

$\acute{a}any\acute{e}gs\acute{e}m\acute{a}$  「彼は私をくすぐ(ってい)る」,

$\acute{a}any\acute{e}gs\acute{e}b\acute{o}$  「彼は彼らをくすぐ(ってい)る」,

$\acute{a}any\acute{e}gs\acute{e}b\acute{s}\acute{s}\acute{a}$  「彼は私たちをくすぐ(ってい)る」.

(以上B型)

§ 2—1—2に見た形に対格接尾辞が続く場合は、動詞部分が

A型:  $S_1m\acute{a}X$ ,  $\acute{S}_2m\acute{a}X$ .

B型:  $S_1m\acute{a}X$ ,  $\acute{S}_2m\acute{a}X$ .

というアクセント (B型は変わらず) となって、対格接尾辞のアクセントは $C\acute{V}/C\acute{V}CV$ となる。

$\acute{a}m\acute{a}g\acute{e}nm\acute{a}$  「彼はもう私を見た」,  $\acute{a}m\acute{a}g\acute{e}nb\acute{o}$  「彼はもう彼らを見た」,

$\acute{a}m\acute{a}g\acute{e}nb\acute{s}\acute{s}\acute{a}$  「彼はもう私たちを見た」;

$\acute{a}m\acute{a}m\acute{a}as\acute{e}m\acute{a}$  「彼はもう私をなだめた」,  $\acute{a}m\acute{a}m\acute{a}as\acute{e}b\acute{o}$ ,  $\acute{a}m\acute{a}m\acute{a}as\acute{e}b\acute{s}\acute{s}\acute{a}$ ;

$\acute{b}\acute{a}m\acute{a}g\acute{e}nm\acute{a}$  「彼らはもう私を見た」, etc.;

$\acute{b}\acute{a}m\acute{a}m\acute{a}as\acute{e}m\acute{a}$  「彼らはもう私をなだめた」, etc.

(以上A型)

$\acute{a}m\acute{a}k\acute{a}ng'\acute{m}\acute{a}$  「彼はもう私をしばった」,  $\acute{a}m\acute{a}k\acute{a}ng'\acute{b}\acute{o}$ ,  $\acute{a}m\acute{a}k\acute{a}ng'\acute{b}\acute{s}\acute{s}\acute{a}$ ;

$\acute{a}m\acute{a}ny\acute{e}gs\acute{e}m\acute{a}$  「彼はもう私をくすぐった」,  $\acute{a}m\acute{a}ny\acute{e}gs\acute{e}b\acute{o}$ ,

amányəgsəbəsə;

bámakang' má 「彼らはもう私をしばった」, etc.:

bámányəgsámá 「彼らはもう私をくすぐった」, etc. (以上B型)

§ 2—1—3 に見た形に対格接尾辞が続く場合は、動詞部分のアクセントは変わらず、対格接尾辞のアクセントはCV/CVCV となる。

ângénbámá 「彼は私を見(てい)ない」,

ângénbábó 「彼は彼らを見(てい)ない」,

ângénbábəsə 「彼は私たちを見(てい)ない」;

ámáasəbámá 「彼は私をなだめ(てい)ない」, áamáasəbábó, áamáasəbábəsə.

(以上A型)

ânkáng' bāmá 「彼は私をしばらない(しばっていない)」, ânkáng' bábó,

ânkáng' bábəsə;

áanyəgsəbámá 「彼は私をくすぐらない(くすぐっていない)」,

áanyəgsəbábó, áanyəgsəbábəsə. (以上B型)

§ 2—1—4 に見た形に対格接尾辞が続く場合は、動詞部分のアクセントは変わらず、対格接尾辞のアクセントはCV/CVCV となる。

akágénbámá 「彼はまだ私を見ていない」,

akágénbábó 「彼はまだ彼らを見ていない」,

akágénbábəsə 「彼はまだ私たちを見ていない」;

akamáásəbámá 「彼はまだ私をなだめていない」, akamáásəbábó, akamáásəbábəsə;

bákágénbámá 「彼らはまだ私を見ていない」, etc.;

bákamáásəbámá 「彼らはまだ私をなだめていない」, etc. (以上A型)

akákâng' bāmá 「彼はまだ私をしばっていない」, akákâng' bábó, akákâng' bábəsə;

akányəgsəbámá 「彼はまだ私をくすぐっていない」, akányəgsəbábó,

akányəgsəbábəsə;

bákákâng' bāmá 「彼らはまだ私をしばっていない」, etc.:

bákányəgsəbámá 「彼らはまだ私をくすぐっていない」, etc. (以上B型)

§ 2—2—1 に見た形に対格接尾辞が続く場合は、動詞部分のアクセントは変わらず、対格接尾辞のアクセントはCV/CVCV となる。

ângeéma 「彼は私を見た」, ângeébo 「彼は彼らを見た」,

ângeébəsə 「彼は私たちを見た」;

ǎnmaasiíma 「彼は私をなだめた」, ǎnmaasiíbo, ǎnmaasiíbəsó;

báŋgeéma 「彼らは私を見た」, etc.;

bánmaasiíma 「彼らは私をなだめた」, etc.

(以上A型)

ǎnkāáma 「彼は私をしばった」, ǎnkāábo, ǎnkāábəsó;

ǎnnyəgsííma 「彼は私をくすぐった」, ǎnnyəgsííbo, ǎnnyəgsííbəsó;

bánkāáma 「彼らは私をしばった」, etc.;

bánnyəgsííma 「彼は私をくすぐった」, etc.

(以上B型)

§ 2—2—2 に見た形に対格接尾辞が続く場合は、動詞部分のアクセントは変わらず、対格接尾辞のアクセントはCV/CVCV' となる。

aágeéma 「彼は私を見た」, aágeébo 「彼は彼らを見た」,

aágeébəsó 「彼は私たちを見た」;

aámaasiíma 「彼は私をなだめた」, aámaasiíbo, aámaasiíbəsó;

báágeéma 「彼らは私を見た」, etc.;

báámaasiíma 「彼らは私をなだめた」, etc.

(以上A型)

aákāáma 「彼は私をしばった」, aákāábo, aákāábəsó;

aányəgsííma 「彼は私をくすぐった」, aányəgsííbo, aányəgsííbəsó;

báákāáma 「彼らは私をしばった」, etc.;

báányəgsííma 「彼は私をくすぐった」, etc.

(以上B型)

§ 2—2—3 に見た形に対格接尾辞が続く場合は、動詞部分のアクセントは、B型でSがS<sub>2</sub>の場合に、

Ś<sub>2</sub>CV(V)X' (+ VIII).

となる他は変わらず、対格接尾辞のアクセントはCV/CVCV' となる。

agééma 「彼は私を見た」, agéébo 「彼は彼らを見た」,

agéébəsó 「彼は私たちを見た」;

amáásiíma 「彼は私をなだめた」, amáásiíbo, amáásiíbəsó;

bágeéma 「彼らは私を見た」, etc.;

bámáásiíma 「彼らは私をなだめた」, etc.

(以上A型)

akāáma 「彼は私をしばった」, akāábo, akāábəsó;

anyəgsííma 「彼は私をくすぐった」, anyəgsííbo, anyəgsííbəsó;

bákāáma 「彼らは私をしばった」, etc.;

bányəgsííma 「彼は私をくすぐった」, etc.

(以上B型)

§ 2—2—4 に見た形に対格接尾辞が続く場合は、動詞部分のアクセントは変わらず、対格接尾辞のアクセントはCV'/CVCV' となる。

- abíigéemá 「彼は私を見る」, abíigéebó 「彼は彼らを見る」,  
 abíigéebásə 「彼は私たちを見る」;  
 abíimáásíimá 「彼は私をなだめる」, abíimáásíibó, abíimáásíibásə;  
 bábíigéemá 「彼らは私を見る」, etc. ;  
 bábíimáásíimá 「彼らは私をなだめる」, etc. (以上A型)  
 abíikāámá 「彼は私をしばる」, abíikāábó, abíikāábásə;  
 abíinyəgsíimá 「彼は私をくすぐる」, abíinyəgsíibó, abíinyəgsíibásə;  
 bábíikāámá 「彼らは私をしばる」, etc. ;  
 bábíinyəgsíimá 「彼は私をくすぐる」, etc. (以上B型)

§ 2—2—5～8 に見た形に対格接尾辞が続く場合は、動詞部分のアクセントは変わらず、対格接尾辞のアクセントはCV'/CVCV' となる。

- ǎngeébmá 「彼は私を見なかった」, ǎngeébbó, ǎngeébbásə, etc. ;  
 ǎnkāábámá 「彼は私をしばらなかった」 etc. cf. § 2—2—5.  
 aágeébmá 「彼は私を見なかった」 etc. ;  
 aákāábámá 「彼は私をしばらなかった」 etc. cf. § 2—2—6.  
 agéébmá 「彼は私を見なかった」 etc. ;  
 akāábámá 「彼は私をしばらなかった」, etc. cf. § 2—2—7.  
 abíigéebámá 「彼は私を見ない」, etc. ;  
 abíikāábámá 「彼は私をしばらない」, etc. cf. § 2—2—8.

§ 3—1—1 に見た形に対格接尾辞が続く場合は、動詞部分のアクセントは変わらず、対格接尾辞のアクセントはCV/CVCV' となる。

- génáma 「私を見ろ」, génábo 「彼らを見ろ」, génábəsə 「私たちを見ろ」;  
 máásóma 「私をなだめろ」, máásóbo, máásóbasə. (以上A型)  
 kang'áma 「私をしばれ」, kang'ábo, kang'ábəsə;  
 nyəgséma 「私をくすぐれ」, nyəgsébo, nyəgsébasə. (以上B型)

§ 3—1—2 に見た形に対格接尾辞が続く場合は、動詞部分が

A型: Xná.

B型: CV(V)Xná.

というアクセントとなって、対格接尾辞のアクセントはCV/CVCV' となる。

géénáma 「(君達)私を見ろ」, géénábo 「彼らを見ろ」,

géénábəsá 「私たちを見ろ」;

máásíináma 「私をなだめろ」, etc.

(以上A型)

kang'ánáma 「私をしばれ」, kang'ánábo, kang'ánábəsá;

nyəgsíináma 「私をくすぐれ」, etc.

(以上B型)

§ 3—2—1～2に見た形に対格接尾辞が続く場合は、動詞部分のアクセントは変わらず、対格接尾辞のアクセントはCV'/CVCV' となるようであるが、一部不確かである。

koógenmá 「私を見るな」, koógenbo, koógenbəsá, etc.;

koókang' má 「私をしばるな」, etc.

cf. § 3—2—1.

byeégenmá 「(君達)私を見るな」, byeégenbo, byeégenbəsá, etc.;

byeékang' má 「私をしばるな」, etc.

cf. § 3—2—2.

§ 4に見た形に対格接尾辞が続く場合は、動詞部分のアクセントは変わらず、対格接尾辞のアクセントはCV/CVCV' となる。

ágénma 「彼が私を見るように」, ágénbo 「彼が彼らを見るように」,

ágénbəsá 「彼が私たちを見るように」;

ámáaséma 「彼が私をなだめるように」, ámáasébo, ámáasébəsá.

(以上A型)

ákáng' ma 「彼が私をしばるように」, ákáng' bo, ákáng' bəsá;

ányəgséma 「彼が私をくすぐるように」, ányəgsébo, ányəgsébəsá.

(以上B型)

おわりに

以上は、收拾したデータに基づく、現時点でできる限りの分析である。調査もれの形もあるはずで、全面的とはいえないが、この言語の動詞アクセントの概略は提示しえたと思う。なお、こうした動詞アクセントがどのように決定されているか、その決定のされ方がどの程度に規則的であるかといった検討は、後の機会に譲らざるをえない。

## 注

- 1) この言語の調査は、東京外大 A A 研加賀谷良平教授を研究代表者とする科学研究費補助金によるバントゥ諸語調査の一環として、1990年にカメルーン的首都ヤウンデで行った。この調査におけるインフォーマントは、1962年にバフィア南東のGoura という町のややヤウンデ寄りのTsekane に生まれた Hbara Bidias Essobo氏である。
- 2) w/y は、半母音としても用いられる。nyで表記した音は、半母音y を含むものではない。

この言語には正書法（らしきもの）がない。

- 3) 動詞のあらわす行為の主体たる人称もしくは主体をあらわす名詞のクラスに呼応して音形交替する部分を主格接辞と呼ぶ。人称主格接辞とクラス主格接辞（後述）を分けてあげているが、本質的には同種のものである。
- 4) 動詞のあらわす行為の対象たる人称もしくは対象をあらわす名詞のクラスに呼応して音形交替する部分（対格接辞と呼ぶ）を動詞語幹直前に置くことができる言語が、バントゥ諸語の中では多数である。
- 5) 「クラス」というのは、印欧語等に見られる「性」に似た名詞の下位範疇であるが、名詞のあらわすものの自然的性には関係がなく、かつ、「性」よりずっと数が多い。
- 6) A型というの、バントゥ諸語の段階で語幹第一音節の高かった動詞の系統をひくもの、B型というの、バントゥ諸語の段階で語幹第一音節を含めて低く平らな動詞の系統をひくものである。
- 7) 「調整規則」というのは、アクセントを統一的に表示した場合に、主として語形が短い時に調整的言明が必要になることがあるが、それをさす。